

埼玉偕行会総会

第43回埼玉偕行会総会は令和元年6月30日(日)午前10時から、さいたま市民会館「うらわ」に於いて、ご来賓、講師及び会員等総勢57名の参会を得て盛大に開催された。埼玉偕行会会員総数は4月現在537名であるが、そのうち元幹部自衛官の会員数は昨年の409名から440名に増え、総会参加者も昨年を上回る35名となった。

第一部年次総会は副会長大浦誠哉氏(陸自60)の司会で開始、国旗に対し敬礼、国歌斉唱、戦没者・自衛隊殉職者・物故者に黙祷を行った。この際、バックの演奏に使用したCDは中央音楽隊にお願いして新たに作成したものである。

最初に、埼玉偕行会会長柳澤壽昭氏(陸

自69)より、次の内容の挨拶があった。「埼玉借行会の活動目的は借行社と全く同じであり、将来にわたり借行社と一体感を持つて活動する。」旨を強調され、借行社は、自衛隊部外協力団体の中でも最も諸条件に恵まれた将来性のある夢と希望の持てる組織であるので、この組織を最大限活用して、気楽に楽しいOB生活を送って欲しいこと、また埼玉借行会の元幹部自衛官会員数は、昨年度に続いて全国トップを維持しておるものの借行社全体としてはやや伸び悩みの傾向もあり、今後とも入会促進に努力することが重要であると述べた。次いで、振武台連絡会(陸士57期)61期の会)も一昨年度から埼玉借行会が引き継いだことについても説明があった。

続いて副会長兼事務局長小林武一(陸自64)から、平成30年度の会務・会計報告並びに令和元年度の新役員を紹介し総会が終了した。

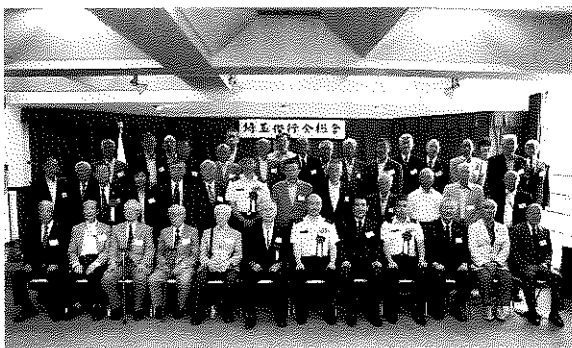
第二部記念講演は10時50分から講師東部方面総監部幕僚長兼朝霞駐屯地司令鬼頭健司陸将補から「陸上自衛隊の現状」と題して約1時間、プロジェクト等を活用し、豊富な資料をもとにご自身の体験談を含め、熱弁を振るわれた。講話の内容としては陸上自衛隊の現況として安全保障環境、大きく変わりつつある我が国の安全保障戦略の考え方、陸上防衛力整備の現状等が話され、次いで東部方面

隊の現状に触れ、さらに前勤務地であった幹部候補生学校の現況についても分かり易く説明された。

第三部懇親会は、常務理事中村幹生氏(陸自73)の司会で12時から開始、先ず埼玉借行会会長の挨拶のあと、来賓祝辞となり、東部方面総監部幕僚長兼朝霞駐屯地司令陸将補鬼頭健司様、公益財団法人借行社会会長志摩篤様、化学学校校長兼大宮駐屯地司令陸将補竹内綱太郎様、自衛隊埼玉地方協力本部本部長1等空佐山野正志様、第32普通科連隊長1等陸佐横山裕之様、公益社団法人隊友会埼玉県隊友会副会長山澤将人様から夫々ご祝辞を頂いた。続いて来賓の公益財団法人借行社副理事長・振武台連絡会特別相談役深山明敏様の乾杯の音頭で宴会に入り、和気藹々の中、楽しいひと時が過ぎた。特に司会の判断で適宜、指名による一言スピーチで会場を盛り上げた。

恒例の軍歌演習は、小倉健男氏(陸士61期)と常務理事竹下泰義氏(陸自70)の指揮のもと旧陸軍関係会員全員で「仰げば瓊々たる」「航空百日祭」「血潮と交えし」を歌い、続いて元幹部自衛官による「この国は」「幹部候補生学校校歌」を歌った。

最後に、会員で現県議会議員の岡重夫氏(陸自76)の中締めの後、実行委員長小林武一の謝辞をもって14時一連の行事を無事終了した。



埼玉借行会副会長兼事務局長
小林武一(陸自64)